

四日市大学 生物学研究所

# プランクトン通信

No. 13 2018年5月発行

## プランクトン調査の楽しみ

同じ池でプランクトンを採集しても、種類や量は調査する時期によって変わることがあり、全く同じということはありません。あるプランクトンが大量発生しているのを見て春を感じたり、今までその池では見たことがなかったプランクトンが現れたり、プランクトン調査には様々な楽しみがあります。今回は例として、種類組成が変化した伊坂貯水池（四日市市伊坂町）を紹介します。

伊坂貯水池では、一年中藍藻類を見ることができます。2014年10月に採集した試料では *Microcystis* という藍藻類が大量発生しており（図1A）、プランクトン通信 No. 1（予告版）でも紹介しました。様々な密度でたくさんの粒が集まった塊が *Microcystis* の仲間です。紐状のものは *Anabaena* の仲間、これも藍藻類です。最近では、*Aphanizomenon flos-aquae* という藍藻類が増えています。図1Bは2017年12月に採集した試料の写真で、多数の棒状に見えるものが *Aphanizomenon flos-aquae* です。輪郭がはっきりした塊状の *Woronichinia naegeliana* という藍藻類もよく見かけるようになりましたが、*Microcystis* の仲間は少なくなっているようです。

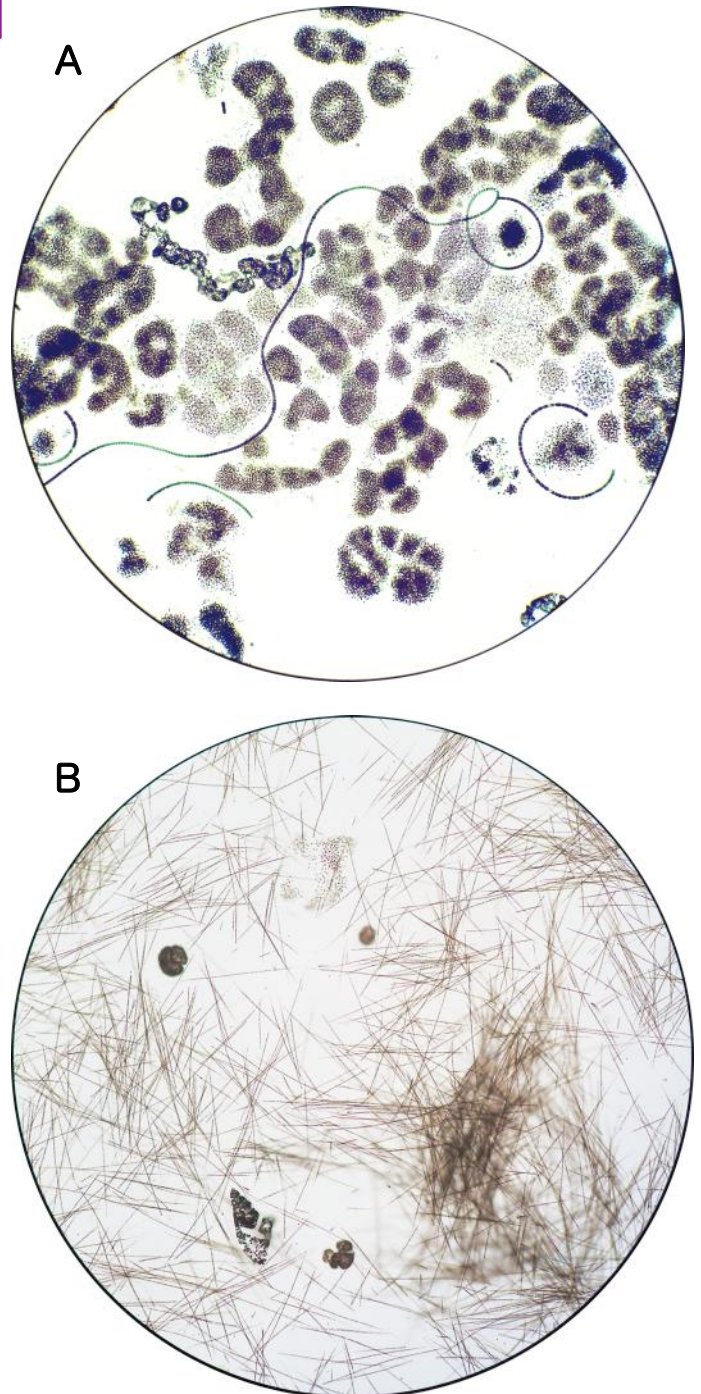


図1 100倍で観察した顕微鏡画像

A: 2014年10月、B: 2017年12月